

## 留学報告書 ～タイの文化に触れて～

コンケン大学  
国際文化学部生（長期）

私は、2022年6月から2023年の4月までタイの東北部にあるコンケン大学に9か月間長期留学をしました。コンケン大学はバンコクから飛行機で1時間ほどのところにあります。観光地として有名な都市ではないので、観光客として訪れるだけでは知ることのできないタイのローカルな部分に触れることができました。また、コンケン大学はタイ東北部の中でも有名な大学で、広大な敷地にたくさんの学部を持つ総合大学です。

まずは授業について紹介します。私は人文社会学部、英語学科で授業を受けました。すべての授業をタイ人の他の学生と同じ教室で、英語で受けました。タイの大学生はiPadやノートパソコンをほとんど全員が持っており、すべての授業の教材や課題の提出をインターネット上で行いました。使っていたサービスは教授によってバラバラでしたが、紙で課題を提出するように言われたことはなく、PDFに書き込んだファイルを提出することがほとんどでした。

留学中に受けた授業の中で印象的だった授業はディスカッションの授業です。この授業では毎回、先生が議題を発表し、それについてペアで話し合ったりグループで話し合ったりしました。この留学に申請した時の私のTOEFLのスコアは申請できるギリギリのレベルで、英語力に自信はあまりないまま、タイで生活してみたいという気持ちだけで応募しました。しかし、このような発言する機会が多い授業に参加したことで、授業内外で学生が積極的に私たち留学生とコミュニケーションをとろうと話しかけてくれたので、友達もすぐに作ることができました。

そしてそこでできた友達に日常生活でもたくさん助けられました。例えば、留学担当者の方とのコミュニケーションを手伝ってくれたり、ナイトマーケットへ買い物についてきてくれたり、タイ語の基本的な単語を教えてくれたりしました。授業で英語を使うことはもちろんですが、日常生活で友達と日本とタイの文化について経験を話したりすることで英語力が大きく向上したように感じます。また、コンケン大学には日本語学部があり、その学生の日本語練習や宿題を一緒にしたり、日本人の先生に相談に乗ってもらったりしてたくさん助けられました。

次に、大学生の生活について紹介します。現地の学生の多くは学内外の寮で生活しています。寮は学内にもありますが、私が渡航した時期はまだコロナ禍であったため、留学生は学外の寮に入居するようになると言われ、留学担当の方がリストアップしてくれた中から寮を選びました。一人部屋で、バス停にも近かったので学外でも全く問題はありませんでした。

学生の半数ほどはモーターバイクで通学していますが、大学内とその周辺の寮がたくさんあるエリアに無料シャトルバスが走っており、バイクの運転を許可されていない留学生は主にそのシャトルバスを使って授業へ向かいます。タイの交通機関というと時間通りに来ないイメージがあるかもしれませんが、10分から15分に1本のペースで走っているのでも時刻表通りではなくてもバス停で10分程度待っていればバスに乗車することができます。一応、GPSでバスの位置を確認できるアプリがあるので、それでおおよその時間は知ることができます。

そして学校の敷地内にコンビニ、銀行、郵便局、各学部の食堂、ナイトマーケットなど生活に必要なものはそろっています。そして、大学前から出るロットゥーと呼ばれる乗り合いバンに乗ると、町で一番大きなショッピングモールとバスターミナルに行くことができます。バスターミナルからはバンコク、チェンマイ、チェンライなど観光地に行く長距

離バスに乗ることができます。またイミグレーションもバスターミナルにあるので、VISAの延長などで何度も訪れました。夜行バスや列車があるので、土日休みや3連休でタイ国内のたくさんの場所を訪れることができました。特に、有名な寺院を訪れたり、ラオスとの国境を流れるメコン川を見に行ったり、スリンにゾウ祭りを見に行ったりはとても印象に残っています。

次にタイの文化についてです。留学前にたくさんの人から聞いていたのは、タイ人は基本的にとてもルーズだから気を付けるように、ということでした。授業の開始時間には先生も生徒もまだ来ていなかったり、約束した時間に今から行くという連絡が来たり、ルーズな面もありましたが、全体を通した個人的な印象は、思っていたよりも正確な人が多いということです。日本の文化についてみんなよく知っているのも、約束した相手が時間に正確な日本人だという意識があったからかもしれません。

そしてもう一つのタイ人の特徴としてとても人当たりがいいということも聞いていました。実際に、寮のオーナーさんは毎日あいさつしてくれたり、先生たちも学生も顔を合わせると手を振ってくれたり声をかけてくれたりしました。また学生はアルバイトをしていない人が多く、毎日のようにナイトマーケットへご飯を食べに連れ出してくれました。タイにいる間は私もタイのゆったりとした空気に慣れて日本にいるときほど時間を気にせずに過ごしていたように思います。それでも、VISAの延長申請や履修登録の大切な書類の手続きは時間を長く見て締め切りよりも早くに提出する、日程が迫る前に催促するなど自分なりに対策をしていました。

最後に、9ヶ月間タイに滞在して、流れる時間の違いを肌で感じ、タイ人の柔らかい性格に癒やされ、たくさんの人に助けられて、タイという国が大好きになりました。渡航する前とあとではイメージが大きく変わったこともあり、やはり実際に訪れて地元の人と交流しないとわからないことがあると再確認しました。特に、日本で過ごすより時間の流れがゆったりとしているように感じ、自分の時間に対する価値観は大きく変化しました。また、タイという国が抱える問題にも目を向ける機会があり、それと同時に日本の文化、自分自身のことについても振り返る機会がたくさんありました。これまでの自分を振り返り、これからのことについて、多くのタイの友人のように大きくゆったりと考えることは、自分に必要な時間だったと感じています。タイでたくさんの人に助けってもらったことを、今度は私が誰かにできるようにしていきたいと思います。

この留學生活で学んだことは今後の私の人生に大きな意味を持つと思います。この留學生活を送ることができたのは家族や友人、他にもたくさんの方々のサポートのおかげです。改めて感謝いたします。